【様式1】
令和６年度　授業改善推進プラン

東久留米市立小山小学校　第６学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・令和6年度の「全国学力・学習状況調査」の結果から、既習の漢字を活用できる児童が52.2%である。 ・同調査の結果から、文法的な知識への理解が正答率62.3%と課題が見られる。また、授業の中で、教科書内の言葉の意味が分からなかったり使い方が分からなかったりして質問する場面もある様子から、語彙力にも課題が見られる。	・日常の書く活動の中で、既習の漢字を使うことができるように、言葉かけや個別支援、推敲の指導を行っていき、既習漢字の活用について正答率80%を目標とする。 ・既習の漢字や文法の反復を、モジュールの中で行っていき、既習漢字の活用について、正答率80%を目標とする。
算数	・令和6年度の「全国学力・学習状況調査」の結果やワークテストの結果から、問題場面を把握し、立式することに課題が見られる児童が40%程度いる。 ・同調査の結果やワークテストの結果から、既習事項である小数のわり算や計算のきまりなどに課題が見られる児童が５０%程度いる。単元の学習中にできても、時間が経つと定着していない児童も多い。	・立式・計算過程を図や表などを用いて見える化させる活動を行うことにより、式や計算の意味理解を深められるようにする。単元テストの正答率８０%を目標とする。 ・つまづきの原因となっている部分をベーシックドリル診断テストなどで把握し、復習の時間を設け、取り組めるようにする。単元テストの正答率９０%を目標とする。
社会	・事象と事象のつながりや、歴史上の出来事と現代の社会とのつながりを考えることに課題が見られる。ノート等における記述評価がCの児童が児童が３０%程度いる。 ・社会的事象に対して、意欲的に調べたりまとめたりすることができている。意欲における１学期末評価A及びB評価が１００%である。 ・学習問題に対し、事実を根拠として自分の考えを述べ、ノート等における記述評価がA及びB評価の児童が６０%から７０%程度いる。	・時間軸を明確にし、歴史的事象と現代社会とのつながりを感じることができる授業の工夫を行うことで、つなげて考えることができる児童を９０%以上にする。 ・毎時間のふり返りを確保することで、自分の考えをまとめる経験を積み重ねられるようにする。また、根拠を明らかにするように助言することで、学年末には学習問題に対して、事実を根拠として自分の考えをまとめられる児童を９０%以上にする。
体育	・男女ともにほとんどの種目で、全国平均と同等かそれ以上のTスコアである。 ・男子は「長座体前屈」、女子は「長座体前屈」「反復横跳び」が全国平均のTスコアと比較し、４～７ポイント程度低い。この結果から柔軟性や敏捷性に課題があることが明確である。	・主運動の前の補助運動において、柔軟性を高める運動を取り入れ、家庭でも継続的に行えるような働きかけをしていく。 ・体つくり運動や陸上運動において、ラダーを用いたサーキット走やボール運動におけるルールの工夫を行い、敏捷性を高められるようにする。また、外部講師の招聘を行うことで運動に対する肯定的な意識を高め、運動習慣を身に付けるともに、学年の８割が全国平均と同程度の数値になるようにする。